

シリーズ
さくひん



「少年時代・秋」

この絵は作者の志村さんが少年時代に、柿の木に登り、柿をもいで食べたりした頃の懐かしい思い出が込められた作品です。志村さんは、四季折々をテーマにいくつもの作品を仕上げている。その作品は施設の中に展示され、みなさんの心をいつも和ませています。

作者/老人保健施設 ノイエス
入所者 志村重勝

YAMANASHI

さくひん

1997. December Vol.2
山梨県老人保健施設協議会広報誌

■ 特集
第一回山梨県老人保健施設大会開催

ほっと
たいむ
山梨県
いい湯めぐり



山梨県御沢町「かじかの湯」

山梨県の温泉といえば、石和や湯村といった温泉郷を思い出す方も多いことでしょう。この他にも非常に優れた温泉が山梨県にはあります。湯質に恵まれた土地ということがよく分かりますね。

今回は南巨摩郡に位置する御沢町にスポットを当て、「かじかの湯」をご紹介します。ここは、地球が今から1500万年前の地質時代に活動していた海底火山によってできた岩盤より湧出しており、湧出口温度38℃、湧出量は日量150tです。泉質は高濃度のナトリウム塩化物泉で、成分はナトリウム、カルシウム、カリウムの陽イオンに、塩素、硫酸の陰イオンが大量に含まれていて、食塩泉・石膏泉・芒硝(ぼうしょう)泉がミックスされた温泉で「療養泉」と呼ばれ、一般の温泉よりその効能が高いといわれています。

温泉地効果としても、森と水に恵まれた山間地という快適な自然環境にあって、「休養」「保養」「療養」の三つの「養」による作用が、内分泌や神経、

免疫系といった複雑に相互作用している体調の正常化や自己免疫力の増強に大きな効果があるといわれています。

浴用の適応症は次の通りです。【神経痛・筋肉痛・関節痛・五十肩・運動麻痺・うちみ・くじき・慢性消化器病・冷え症・火傷・慢性婦人病】



「かじかの湯」に関するお問い合わせはこちら

甲州御沢温泉 かじかの湯
TEL.0120-26-4146 0556-27-0002
南巨摩郡御沢町宮原13-1



編集後記
予定より少し遅れてしまいましたが、「YAMANASHI ろうけん」第2号をお届けいたします。今回は、2つの大きな研修会を特集いたしました。特に、第1回山梨県老人保健施設大会の開催は、各施設のレベルアップに繋がることと大いに期待しております。これからも特色ある広報誌を作っていきたいと思っておりますので、皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。
編集委員長 竹内 亨

YAMANASHI
さくひん
1997. December Vol.2
山梨県老人保健施設協議会広報誌

山梨県老人保健施設協議会広報誌

編集・発行 山梨県老人保健施設協議会 広報委員会
事務局 〒406 山梨県東八代郡石和町四日市場2031甲州ケア・ホーム内
TEL.0552-63-0242 FAX.0552-63-2250

制作 BeAD.
総合広告代理店【ビー・アール】TOTAL ADVERTISING AGENCY

- 平成9年度老人保健施設職員基礎研修会(山梨大会)
- あい・あい・あい海外研修
- 施設訪問記—NAC湯村—
- ソフトバレー大会結果—チームワークの勝利!—

はじめての 山梨県老人保健施設大会開催

平成9年10月6日、石和町スコレーセンターにおいて第1回山梨県老人保健施設大会が開催されました。

この大会は「日頃のケアの実践をお互いに発表し合い、施設間の交流を深め、さらにケアの質の向上を目指す」ことを目標としています。この日、山梨県にある全施設（19施設）から185名の参加者が集まり、24の演題の発表がありました。

開会式では、県福祉保健部長寿社会課の林健課長より「これからの老健の活躍に期待しています。」との祝辞をいただきました。

研修発表は「介護について」「看護について」「相談指導員について」と、大きく三つに分かれており、参加者全員がこの全ての発表を聞く形がとられました。



発表の中にはユニークなケアの実践もあり、時折会場から笑い声が上がることもありました。質問時にはありとあらゆる意見や感想が飛び交い、参加者は皆、真剣に聞き入っていました。

「交流の場が持てて良かった」

それぞれの施設が個性を十分に生かした取り組みをしており、工夫した看護・介護を行っている様子が見え、意見交換も活発に行われました。

大会終了後のアンケートの結果、研修会が有意義であったとの回答が97%を占め、この大会について、「交流の場が持てて良かった」、「他の施設との情報が交換できた」等の意見が多く聞かれました。さらに、「失敗例や困っていることも聞きたかった」、「分科会形式で発表討論を行える場所があったら良いと思う」といった、より深い情報交換の場を求める意見も見られました。

大会を終えて島津寿宏協議会長は「非常に有意義な研修会であった。施設間の交流を深め、ケアの質の向上のためにもこのような研修会は重要である。」

これからもこうした大会を開いてお互いに切磋琢磨していきたい」と感想を語りました。



演題の一覧

- 脱水対策
～ノイエス流水分補給の確立について～
ノイエス 介護職員 山下陽子
- 家庭的な雰囲気の導入
～利用者やすらぎと満足感を～
甲府かわせみ苑 介護副主任 大浦博文
- 地域性を生かしたレクリエーションを通して
いちのみやケアセンター 介護職員 岡田美保
- 当施設における転倒事故の分析とその対策について
～開設一年を振り返って～
甲府南ライフケアセンター 介護副主任 熊本 勝
- 回想法を試みて
～心の声を聞きたい～
ひばり苑 介護リーダー 山岸 修
- 念願かなったオムツ外し
～ADL向上を目指して～
峡北シルバーケアホーム 介護職員 小林真由美
- 当施設における在宅支援の特徴
～サポートシステムにより在宅復帰がスムーズに出来た一事例～
しおかほ福寿の里 介護職員 宮沢秀一
- ケアプランに基づいた一症例から
つる 介護人 奥藤恵子
- よってけし たべてけし のんでけし
～お茶処を開催して～
甲州ケア・ホーム 介護員 武田歌織
- “楽しさ”支援のケアプラン
～私、もっと美人になるわ～
峡北シルバーケアホーム 介護職員 平嶋幸子
- 歌を唄ってストレスを吹き飛ばそう
～歌と楽器を生活に取り入れてみて～
つる 看護婦 佐藤百合子
- 僻地での在宅介護を実現して
～経管栄養となったK氏の事例を通して～
ケアセンターいちかわ 看護婦 一瀬清美
- 経管栄養から経口摂取に改善された症例について
恵信ケアセンター 看護主任 赤尾美智子
- 難治性の疥癬が全快
～身体の清潔、環境整備により改善された症例～
峡北シルバーケアホーム 看護職員 宮下みゆき
- 長期入所を考える
峡西老人保険センター 看護主任 和田伸也
- 褥瘡前段階からのケア
～腸骨圧迫による発赤の早期改善がみられた症例～
峡北シルバーケアホーム 看護職員 清水 愛
- 脳梗塞後遺症を持つ入所者のADL向上を目指して
～ベースメーカー装着に伴う諸症状の観察～
ふじ苑 看護婦 矢崎ふう子
- 利用者の満足度を考える
～レベル別グループワークを取り入れて～
峡西老人保健センター デイケア看護婦 丸山美代子
- 生活を活性化させたもの
～リハビリパンフとトイレ誘導の効果～
峡南ケアホームいよいよみ 介護福祉士 佐野英代
- 安心・安定・安住を求めて
～レベル別グループワークを取り入れて～
峡西老人保健センター 介護福祉士 池川陽子
- レクリエーションの現状と問題点
～車椅子や痴呆棟の入所者のレクリエーションはどうしていますか？～
ナーシングプラザ三珠 相談指導員 原 哲哉
- 簡単にできるアクティビティ
～新聞紙ちぎり～
あさひホーム 相談指導員 津金良子
- 老健施設におけるケアプランとケアマネジメント
～施設内ケアプランとケアマネジメントの一事例～
甲州ケア・ホーム 相談指導員 古屋秀次
- 生きることの本当の尊厳を知る愛との出会い
山梨ライフケア・ホーム 相談指導員 大柴 裕

第1回山梨県老人保健施設大会に参加して（山梨県医師会報より抜粋）

～（略）～

発表された演題はそれぞれ創意工夫に満ちたもので、老健に従事する若い介護福祉士や看護婦など、われわれ医師がこれまで教育を受けたものとは全く異なり、入所者ひとりひとりのために職員自ら作ったケアプランに基づいて、喜々として実践している様子を十分に窺えつけた感じであった。

例えば、心身の最もリラックスした状況の中で言葉を交し、入所者の心の安らぎを得ることを目指すとして、重介助を要する人を抱きかかえるようにして一緒に浴槽に入り、話しかけることによって、それまで反応もなかった人が話しに応ずるようになったとか、回想法として入所者に昔話を自由に話させて、職員は時代考

証を学習しながら精神的豊かさを取り戻してあげよう、あるいは、歌と一緒に歌ってストレスを吹き飛ばそう、施設内にお茶処をつくって、せめて入所している間だけでも楽しいお茶の時間を提供してあげようなどということはかつて医学書で見たことはないし、先輩に教えてもらったこともない。

8月末に放送されたNHK全曜フォーラムで一演者が「21世紀の高齢化社会は決して暗いものではない」と言ったが、第8回全国老健大会や、第1回山梨県老健大会を見て、私も同感の念を強くした次第である。

山梨県老人保健施設協議会
理事 白倉 外茂夫
研修委員長

平成9年度老人保健施設職員基礎研修会（山梨大会）

パネルーのみなさま、おつかれ様でした！



山口 全国老健協会長

平成9年度の全国老人保健施設協会主催による第2回職員基礎研修会が、8月7日（木）と8月8日（金）の2日間にわたり、甲府市内の甲府富士屋ホテルに於いて開催されました。この時期の山梨というと、桃やブドウなどの果物の収穫最盛期にあたり、街中から郊外に車を走らせると、たわわに実った桃の木やブドウ棚に吊り下がる色とりどりのブドウが眺められる季節でしたが、それよりも参加者のみなさんを驚かせたのは、きっと甲府盆地のしんどい暑さだったと思われました。この研修会には北陸甲信越地区をはじめ、全国38都道府県から448名の大勢の参加がありました。研修会の対象者は、実務経験2年未満の職員並びにこれから老人保健施設を開業しようとする方々で、この研修の目的である老人保健施設の職員として基礎的知識の習得・適切な管理運営及びサービスの向上を図るため、講師陣による熱心な講演内容と参加者の学ぼうとする熱意により、盛り上がった2日間の研修となりました。

山梨県で行う大きな研修会という、平成2年の全国大会以来のことですが、各施設のチームワークにより、滞りなくこの研修会を終えることができました。この研修会での成功は、10月に行われた山梨県老人保健施設協議会主催の第1回山梨県老人保健施設大会の成功を予感したものとなりました。



島津 山梨県老健協会長



副部長 笠井 進

突然このお話が飛び込んできた時は、まだそのような器でない私に役目が動まるだろうか？と、しばらく頭を悩ませていました。ところが、いざ準備を始めると、以外にも今までの私自身の仕事を振り返りながら、これからの課題を再確認出来ることに気付き、それならばと張り切って打ち込みました。当日も、パネルーのチャンスを活かし、会場の皆さんからの指導を頂きたいという気持ちで望んだため、あまり緊張せずスムーズにお話し出来たと思います。

今回学んだことを、今後の業務につなげていけるよう努力していきたいと思っています。

看護部会 甲州ケア・ホーム 神宮字たか子

パネルディスカッションに看護の立場で参加させていただきました。ケアプランを通して、利用者本位の支援体制を築く工夫をお話ししましたが、私の施設にとっても振り返る良い機会となりました。在宅支援を考えれば考えるほど、木目細やかなサービス調整が必要となります。

日頃、本人や家族に係わりのある私たちだからこそ、お互いの気持ちを汲んで調整していくことも可能です。共感しつつ、高齢者が老いていく事を悔やまないようなケアの提供ができたらと思っています。



リハ部会 甲府南ライフケアセンター 藤本 欽也

全国から大勢の受講者をえて研修会は成功裏に終了。施設を取り巻く環境や社会的ニーズが多様化している中、期待を担うべく職員の資質の向上を図る目的で開講され大変意義のあるものでした。さて、そこで、この日の研修会に参加しての最近の印象記を少々、先ず若い女性が大変多いこと。そして、コーヒータイトムで一斉に会場を出てくると何処も煙の凄まじい放出、椅子やソファで、立ったままのブカブカ談義の光景は男性諸氏を圧倒します。研修会場ではメモやテープ回しの人々のいるなかで、うつむき加減の姿勢で微動だにしない人、長旅の疲れなのでしょうか、ご苦労さま。

介護部会 池谷 建生

実際の発表前に数回パネルーの打ち合わせがあり、その場において様々な職種の観点から意見交換を行いながら在宅支援の方法とは？老人保健施設の果たすべき役割は何であるか？など時間を忘れて議論できたことが当日の発表に対し、奮起させられました。このパネルディスカッションにパネルーとして参加させていただき、今後における介護従事者のあり方を深く考えさせられました。

今後在宅支援について前向きに捉えながら、日々実践を重ねていきたいと考えております。



岐阜在宅介護支援センター 樋口 さやか

今回の老人保健施設基礎研修会に参加させていただいたことは、改めて支援センターの役割、取りも直さず相互の連携の必要性とその結果得られる様々な在宅支援の型を確かなものとして受け止めることが出来ました。

各種サービスを有機的に組み立てて支援して行くことは、私達の大きな役割であるが、ただサービスに結び付けるだけでは単なる支援に終わってしまいます。私達は、人の心を温かくつつみ、様々な人間模様を受け止めて、"またここに来よう"と願っていただけるように、技も心も磨かなければならないと思います。



あい・あい・あい海外研修

ノイエス 事務長 恩田義也



あい・あい・あい海外研修参加者一同

9月1日から10日まで、県が主催する「出会い、ふれあい、支えあい」を合言葉に、第6回「あい・あい・あい海外研修」に山梨県老人保健施設協議会の代表として参加し、ドイツ・オーストリアの福祉事情を視察してきました。

この研修の主な目的は、ドイツ(オーストリア)の福祉事情の視察とドイツに先発した公的介護保険の実態を見てくることでした。

ドイツは西欧の中では近代化が遅れた国であるだけに、福祉の実状もデンマーク、スウェーデンなどに比してレベルが低いと言われていたのですが、車椅子専用の駐車スペースがあちこちにあったり、違反者には高額な罰金が科せられたり、あるいはウィーンの地下鉄では車椅子で利用できるエレベーターがあったりと日本よりは福祉の意識は高いと見受けられました。また、数字的にも、老人施設や障害者施設は日本よりは遥かに充実しており、ヘルパーの保有数も日本よりずっと多い状態です。介護保険の実施を目前にして、福祉資源の整備が急務である日本の実状に対しては、新ゴールドプランがスムーズに実現し、確実に発展していくことを願うばかりです。

ドイツは保険の先進国といわれ、19



フランクフルト支庁事務所訪問

世紀末から整備されてきた健康保険、年金保険、労災保険、失業保険が社会保障制度の根幹をなすものです。そして、介護保険はこれらについて創設された第5番目の保険です。

1994年に通称「介護保険法」が制定されて3年あまり、最初に訪れたフランクフルト市役所の職員は「1894年に年金保険が作られて100年、今や国外旅行もできるようになった。そのためには、試練の時間とねばり強い努力が必要だった。」と冒頭に述べていましたが、まだまだ制度は始まったばかりで、国民の多くに歓迎されている状態ではないようです。

保険料の徴収、介護認定の方法、現金支給の実態、社会資源の充実、そして税による生活保護的な補填など、そこには大きな課題がたくさん残されています。

例えば、介護認定は医師を中心に行われているものの、制度の実施を急ぐあまりか事態を把握しきれずに、訴訟にまで発展している判定結果も多々あるようです。また、現金支給が8割にも達しており、基金不足と資源不足を補填するには都合がよいとは言え、保険としての意義が薄れてしまっています。

そして、介護保険の施行にもかかわらず、税で支出する老人福祉関係の予算は未だに膨大なものとのことでした。

それらは一一つつ日本の介護保険の実施に生きた教訓として検証され、介護保険によってどのように充足された老後が保証されるのかという問題として議論されて行かなければならないと思いました。

老人施設での印象は、狭いながらもわが家となっている個室のしつらえは、老人の人権が貫かれている扱いだと思いました。それは、ヒューマニズムでもありまじょうが、それ以上に権利(義務)の意識が先行しているものだと感じました。個人主義と孤独に慣ら



ドイツケルン市の街並み

された強い意志に支えられて、個人の生活が大切にされています。そこには、今の日本人の感覚ではまだまだ浸りきれない厳しさがあるように思いました。

歴史と伝統が感じられる中世風の町並み、のどかに見えて労働の厳しさが漂う田園風景、豪華絢爛たる宮殿、公園でくつろぐ市民の姿など、旅の印象は毎日に煩雑な日常生活の中に埋もれ去っていきます。しかし、ドイツ音楽を聞く時、ドイツ風の料理に出逢った時、ドイツのニュースに触れた時、テレビでドイツの風景が写された時等々、ことある毎に、ドイツ・オーストリアで味わった感動と感情がよみがえってくるのはすばらしいことです。



高齢者住居内の様子



ノイシュバンシュタイン城

施設訪問記 おらんとこの施設を紹介するじゃん!

老人保健施設NAC湯村 あたかな介護、自立へのお手伝い。それがNAC湯村の目指すもの。

NAC湯村は、平成9年4月にオープンしたばかりのフレッシュな愛情に満ちた施設です。閑静な住宅街に囲まれ、自然環境にも恵まれた湯村温泉郷内の最新施設で、周囲は老舗旅館・ホテルが連なり常にあたかな風情が漂っています。NAC湯村の最大の特徴は、入浴設備の充実です。良質で豊富な湯量を誇る源泉を十分に利用し、利用者大変喜ばれています。さらにご家族の方が面会に通りやすいという交通の便の良さもメリットのひとつです。

1年生施設ということでスタッフも元気のいい生き生きとした若者が多く、深くあたかい愛情を込めた介護を目指しています。さらに、職員一同各分野にわたるノウハウを利用者の要望から学び、「共生会」の名の通り、利用者と共に生きる最新の都市型施設の確立を目標に努力しています。

- 入所サービス ロングステイ/ショートステイ
- 入所定員 95名(うち、痴呆専門棟 30名)
- 療養室区分 33室(うち、痴呆専門棟 10室)

入所者の身体的機能回復(家庭復帰)への段階的プログラムを実践していく為に、各専門スタッフのきめ細やかな連携のもと、愛情ある介護で日常生活の延長としてリラックスした毎日を過ごしていただきます。
【主な行事】季節行事、レクリエーション、お誕生会、お祭りへの外出、ボランティアの導入、近隣の保育園との交流、カラオケ等。

- 通所サービス
- 通所定員 30名

在宅のお年寄りを専用バス(2台)で送迎し、医師の健康チェック、入浴、食事、リハビリ、レクリエーションを行い、リラックスした1日を楽しく過ごしていただきます。



〒400 甲府市湯村3-15-13 TEL/0552-53-2200 FAX0552-53-2203
開設年月日:平成9年4月23日 設置主体:医療法人共生会 併設:在宅介護支援センター

チームワークの勝利!優勝、甲府かわせみ苑

第3回職員交流ソフトバレーボール大会が、平成9年10月19日(日)に山梨市民体育館において開催されました。今回は、16施設からの参加があり、どのチームの試合も目が離せない好ゲームが展開されました。



成績結果

- 優勝 甲府かわせみ苑
- 準優勝 恵信ケアセンター
- 第3位 あさひホーム

